



たわわに実ったリンゴの樹にも雪が積もり(上)、その実は鳥に食べられる(左下)。サクラの樹にもしなるほどの雪が積もる(右下)

冬の里山を演出する雪景色

隠された餌を探しにやってくる動物たち

自然界の旬



10 雪咲翁さんのいたずら

花咲じいさんは枯れ木に花を咲かせましたが、生木にも花を咲かせたのでしようか。ここ七塚原高原の雪咲翁さんは、枯れ木といわず、生木と

いわず、すべてのものに白い雪の花を咲かせています。お陰で晴れた日の雪景色はとても美しい。葉を落とした高い木も、葉をたくさんつけている中くらいの木も、みんな雪を頂いて冬の里山を演出しています。

これまでは、雪をたくさん乗せて重いだらうなあ、冷たいだらうなあと思っただけでしたが、毎年この景色を見ていると、この季節の雪咲翁さんと樹木の触れ合いのなかなあ、ひよっとしたら、里山の木々は、この雪を待っているのかもしれないと思っようになりました。水分をもらったり、害虫をおっぱらうつもりを期待しているのかもしれない。雪に覆われているあいだ中、里山は水分が潤沢にあり、雪の下では草や樹木の幼生たちが厳しい寒さにさらされることもなく芽を出す準備をしています。

一方、小鳥さんたちや山の動物たちは雪咲翁さんのいたずらはどう思っているのでしょうか。山の食べ物を探すのが雪で隠されたために、餌を探しに里の方へ集団でやってきています。近くのリンゴ園にリンゴの実が残っていたのを、ツグミさんたちが全部食べ

冬の田園地帯にヒラヒラと舞うチョウゲンボウ。名称だけを聞くと、いったい何のことか分からないほどインパクトのある種名ですが、小型のハヤブサの仲間の野鳥なので、変わったその名は、漢

意外な野外のガイドス

～田んぼの生きもの編～
⑥ チョウゲンボウ

鳥では長元坊と書きますが、由来は諸説あるようです。一説では、ある地方でトンボ(主にヤンマ)のことをゲンゲンボーと呼び、チョウゲンボウの飛ぶ姿をヤンマの飛ぶ姿と重ねて、鳥ゲンゲンボーから

空中で停止して餌を発見

紫外線を捉えて確実に獲物を追跡

鳥ゲンボウ、読み方を変えてチョウゲンボウ、となったとも言われていますが定かではありません。本州の北部から中部にかけては繁殖も行い、年中みられる地域もあるもの、ここ広

つけると、体を斜めにしながらホバリング(空中停止)を行った後に急降下して地上で獲物を捕らえます。羽ばたきながら空中で静止する姿は実に不思議な感じがします。さらに驚くべきはその視力で、



雄は頭部と尾羽がグレーがかかる(左) 尾羽を目一杯広げてホバリングする様子(上)

鳥では冬季に渡来したものをみるのができます。ネズミ類や小型の鳥、昆虫、カエルなどが主な餌で、その狩りの方法が実に特徴的です。まず枯野上空を素早く羽ばたいて獲物を探し、ターゲットを見

本種は紫外線を識別することが可能なのです。この能力で主食であるネズミ類の尿が反射する紫外線を捉えることで獲物の行方ある程度追跡し、捕食を容易にさせていると推測されています。

電柱や電線にとまって、羽をじみ出します。これから春までの残冬の枯れ野周辺に立ち寄られる際には、ハトよりも少し大きいくらいのこの猛禽を探してみるのはいかがでしょうか。

(地域支援課 原竜也)

いきものをまもる

⑩ 守るための代償

アライグマは北アメリカ原産の愛嬌のある動物で、ペットとしてかわいがられています。一方、外来種の代表でもあり、逃げ出したアライグマは日本各地に定着して問題を引き起こします。農作物への被害だけでなく、ザリガニやサンショウウオなどの希少種や在来の生物群集への影響が心配されています。捕食性の外来種は、食べる・食べられるの関係を通じて餌動物に大きな影響を与えているのです。

ばなりません。生物を守るうえで、ある地域では保護の対象であって



アライグマ 出展: 「日本の外来生物」(平凡社)より

も、別の地域では侵入生物として排除されることがあります。例えば、イギリスでは絶

滅したビーバーの野生復帰に向けた試みが行われていますが、アルゼンチンやチリではビーバーの大規模駆除の計画が進行しているようです。移入されたビーバーが増加し、固有の植物や生態系に被害を及ぼしているためです。

生物は種によって生息環境が異なっているため、ある種にとって適した環境は別の種にとっても好ましいというわけではありません。ある生物がその生息環境を守ることは、別の生物の生息場所を奪うことでもあるのです。「あちらを立てればこちらが立たず」

地域固有の生物多様性を保全する

守られない生物の存在

も、別の地域では侵入生物として排除されることがあります。例えば、イギリスでは絶

自然やその歴史的価値を守ることが優先されると考えられるようになってきています。

どんな自然を守りたいかは、私たちの自然観、すなわち価値観にもとくものなものです。良くも悪くも、生物の運命は人間の手にゆだねられているといえます。いきものをまもる」という行為には、他の守られない生物の存在が隠されていることを忘れてはいけません。私たちに、そのことを重く受けとめ、何をどう守るべきか深く考えなくてはならない責任があるのです。

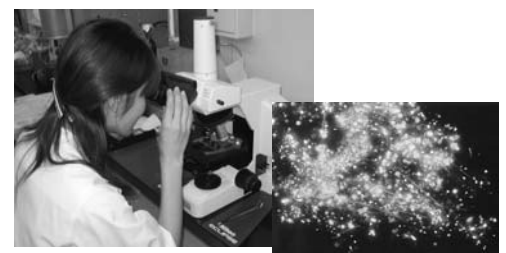
(生物調査課 井原庸)

アスベスト分析(当会では6種類の分析が可能になりました)

「健康被害拡大で無警戒の石綿を対象とした法律の見直し」

平成20年2月に厚生労働省からアスベスト6種類分析の徹底に関する通達が出されました。これにより、アスベスト分析においては、従来の3種類{アモサイト、クリソタイル、クロシドライト}に新たに3種類{アクチノライト、アンソフィライト、トレモライト}を加えた6種類の分析が必要になります。

※ご要望により試料採取の対応を行います。詳細は、お気軽にお問い合わせください。



問い合わせ: 財団法人広島県環境保健協会 企画開発センター 業務開発課 電話: 082-293-0163 (ダイヤル) FAX: 082-293-8915